因伯だより

いんぱくだより

2017
竣工特別号

児童養護施設
因伯子供学園

〒682−0854
鳥取県倉吉市
みどり町3249

TEL 0858-22-2639
FAX 0858-47-0234

ホームページ
http://www.inpakukodomo.jp/

創立１１０周年記念事業
小規模グループホーム竣工式の様子

本園は、昨年創立百十周年をむかえ、その記念事業として小規模グループを起工し、今春４月１４日、無事完成し竣工の記念式典を挙行することができました。

竣工式では、理事長内藤彰範による挨拶に始まり、鳥取県福祉保健部子育て王国推進局局長の井上靖朗様をはじめとして、倉吉市市長の石田耕太郎様（代理として涌嶋祐二様）、倉吉児童相談所所長大下幹男様、前全国児童養護施設協議会会長の藤野興一様にお祝いのお言葉を頂きました。その他にも児入協会長様、県下児童養護施設長様、みどり町公民館長様、当学園理事、監事評議員と多くの関係者の方々の皆さんの列席により盛大な式典となりました。このグループホームの建設に携わって頂いた、堂計画室代表取締役の生田昭夫様、向井工務店代表取締役の山本紘一様への感謝状贈呈も行われました。

お礼の言葉として、学園代表児童の高校３年生男子の文をグループホーム統括リーダー小坂宗司が代読し、この児童についての思い出や思いも含め、みなさんに聴いていただくことが出来ました。

竣工式後は、リビングにて、飲み物や軽食をとってもらい、ゆつくり歓談していただき、グループホーム内の見学もしてもらい、たくさんのお言葉を頂きました。

改めまして、関係者の皆様に感謝申しあげます。

祝辞紹介

因伯子供学園　理事長
浄土真宗　妙寂寺
第１７世住職　内藤彰範

「グループホームの完成」

本年１１０年を迎え様々な事情で学園に入所してくる子供達に、ごく普通に生活してもらい、一般的教養を身に付けて社会に巣立ってくれることを願い職員は一丸となつて職務に努力精進しているところであります。

創設者が住職、坊守であることから学園内仏壇へのお参りや、妙寂寺行事への参加をとおして、手を合わせることや、感謝の心、人を大切にする心などは人一倍身に付けていることと確信しています。大人になったとき、これらの経験はきっと役立つことでしょう。

又長年の念願でありましたグループホームが多くの方々のご支援を頂き設計事務所および建設会社の卓越した技術により近隣に例を見ないホームが完成し、４月１４日鳥取県福祉保健部子育て王国推進局局長、井上靖朗様をはじめとする関係者のご臨席のもと竣工式典を開催いたしました。既に１２人の子供たちが快適に過ごしていることであります。もっともつと小グループで生活できる施設が増えることを念願します。学園で生活し巣立った多くの仲間たち、子供たちを支えられた歴代理事長をはじめ、歴代園長、職員の方々に心より敬意と感謝を申し上げると共に、縁あって生まれてきた尊い子供たちが一人でも欠けることなく、心豊かで幸せになるよう願うばかりであります。

今後とも、当学園にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

因伯子供学園
園長　石亀　政道

子供たちにとっての「おうち」を求めて

リビングの和室には鳳凰の欄間、縁側の木製の濡れた縁、玄関先の陶器製の星形照明、どれをとっても今までの児童養護には見られなかったアイテムです。創立110周年を記念して建築を計画した新しいグループホームが関係の皆様の大きな支援を受けて完成し4月1日無事に竣工式を挙行することができました。

ありがとうございました。

平成27年国の家庭的養護推進計画に基づき、すべての施設に家庭的環境を整えることが求められました。当園もすでに平成17年4月小規模グループケアの記念ホームを建築しました。

小規模ケアを開始していました。今年度、更に2グループケアを開始しました。

新しくグループケアを開始しました。

子供たちからも名称を募集しました。

女子ホームの名前を考えました。

言葉は美しい変化【男子ホーム】は楓（かえで）【花言葉は幸運・長寿】と名付けました。女子には楓のように美しく変化し、男子には欅のように大きく手を伸ばしてもらい、空に向かって幸運をつかんでもらいたい。

すでに稼働している記念ホーム

夢・梧（あおぎり）【花言葉は秘めた意志】と名付けました。

原爆にも負けなかった梧のように強く自分の夢をかなえてほしいところです。

さて、家はできたけれど、暮らしはどうなったのでしょうか？

食事は朝夕は各ホームで調理して食べ、弁当もホーム職員が作ることにしました。リビングで食事の準備をする職員のところに子供たちは集まり、手伝いをすることを求めます。今までは気に入らなっていい食事はその残飯になっていたものが、そのまま人の好みにあっていたものと手間をかけて食べられるようになりました。リビングの和室に寝転んでTVを見る姿や、縁側で友達と話し合う姿など、今までの光景では見られなかった空間です。

40名が一斉に食事をし、一斉に入浴し、一斉に就寝するという時間の流れは、一人一人の生活の流れに応じたものに変わってきています。長年の懸案であった幼児の集団養護も、今回それぞれのホームに分散して生活が始まっています。中高生の女子が2歳児の食事のお世話をしてくれるといううれしい話が聞こえてきています。昨年までは、大きい子が幼児の部屋に入ると叱られてしまうという

本館の方も残った5人のグループホームのルールに合でした。

ルールのようなグループで一つの空間を作ろうとしましたが、こちらは予想に反して、次々と新規入所が決まり10人にまで膨れ上がってしまいました。元気のいい小学生たちの入所で、今少し落ち着きのない生活空間になっています。こちらにも2歳児の幼児がいて、年配の職員には孫のような癒しの対象となっています。

全国児童養護施設協議会が発行した「この子を受け止めて、育むために」という冊子があります。そこには、養育とは子供が意識的・無意識的に思い、「生まれてきてよかった」と大人も育てるように育てる、そしてまた営みで「新しいホームで、始まった自分が大切にされている」というメッセージが子供たちに伝わっていくことを願ってやまないところです。

＊写真（上）和室の欄間
（下左右）玄関先の星形照明

因伯子供学園
理事　伊田　充雄

「110周年を振り返って」

再三に亘り評議員会・理事会により当園創立110周年記念事業として、小規模グループホームの新築についての会議が開かれました。

その結果、春の明るい陽ざしの中に堂々とした感じのホームが木の香りを存分に入るとしたたずまいで温もりを課題に基づき家庭的養護推進計の中に入ったのでした。国の社会的養護の移行計画に沿ったものでありました。

設計は、年間を通しての日照時間、その角度、風向など綿密な観測から始められた設計士さん、施工は寺社建築に優れた技術を発揮される工務店さんによるものでした。

推察するまで内藤理事長、石亀園長、竣工前は、もとより竣工に至るまでのご苦労は如何ばかりか。

竣工式は鳥取県、倉吉市、遠方よりおいでの養護施設、工事関係の代表の方々、当園の関係者が列席し、ほのぼのとした雰囲気を感じながら来賓の方々の祝辞を拝聴しました。

子どもたちの成長の幼児から高校生までの職員さんの変化の言葉を聴いた時、私は胸が熱くなりました。式の後、職員の皆さんの

手作りのサンドウィッチなどで列席者はひと時の歓談を過ごしました。

7年前であったでしょうか、小学校新一年生の下校途中、園へ帰る登り坂を額に汗をうかべている児童に会いました。重い赤色のランドセルに手を貸し軽くした時、幼い目は私を見てパチクリとしたことを思い出しました。

ちまき作り交流会に参加してきましたが、最近その児童の姿を見かけません。家に帰ったのでしょうか。

因伯だより2016秋冬号を思い出しました。内藤理事長の園の歴史とその変遷、創設者の思い、齋江副園長の「子ども達にとって最善の場所となるように・・・」そして職員の方の「園長をはじめ新人に至るまで、因伯独特の文化のなかで各々の個性が活かされ、とても柔軟性がある・・・」「出勤すれば元気が出る」そんな不思議なチームがあるからこそ」と。この号には感覚になるのは頼れる全職員の方、編集された方の日頃の努力と状況、が凝縮されています。因伯子供学園には人間愛を超越した心と世界が脈々と引き継がれていることに思いを馳せた竣工式でした。

↑創設者の八雲数枝さんとともに

因伯子供学園
監事　木天　昌明

「新ホームに家庭の温もり」

「ただいま～」といえば、「お帰り～」と返事が返ってくる。そして、台所に入って食事の準備の様子を見たり、時には一緒になってお手伝いをしたり、家庭にあるのは、このような温もりのキャッチボールではないでしょうか？

このほど、まさに家庭の会話が聞こえて来るお家が、因伯子供学園に完成した。木の温もりを生かした和風建築様式には、従来の施設にはない「団らん」がうまく仕組まれている。

また、ゆっくりと自分を見つめたり、勉強に集中できる個室も、木の香りがして温もりが感じられる。

何らかの事情があって、親と離れて暮らさなくてはならない子どもたちにとって、本当にいい住環境が提案できたと思います。予算上の制約もありますが、このような建築スタイルは、今後の福祉を考えるうえで、貴重なモデルケースになると思います。

新生活がスタートして、職員さんの献身的なご支援にも益々熱が込められてきている。よりー層充実した生活へと前進できる空間の完成を、心からお喜び申し上げます。

新グループホーム職員より
新グループホーム
統括リーダー　小坂　宗司

「児童養護施設の家庭的な生活・養育」は今までも大きなテーマで先輩の多くも実現に向けて研究・実践に努めてこられたと思います。そういった方々の願いが基礎となり因伯小規模ホームでの生活の実現につながりました。故に今務める私たちの責任はとても重いものだと自覚しています。幸いにも職員のチームワークは県内1位へ私の対応経験と感覚では県内1位へ対応が困難な場面でも職員は協力・連携し子どもの様々な気持ちに応えるため、最善策をもって支援にあたると思います。故に私はこの施設で働くことが好きです。チームメイトにも何かとお力にもなりたいと気持ちが湧いてきます。4月から新築の気持ちいい環境で生活させていただき感謝の気持ちでいっぱいです。子どもたちが家庭的な環境で満足そうな顔をしている事ができたと以前より感じます。柔軟性を増え、この様な事が起こるのは当然でしょう。良いことも悪いこともそうです。子どもたちが成長するためには必要な事です。

今のうちにしっかり甘えて愚図って、それを受け止めて。大人が信頼し合って元気に生活していく。伯子供学園を応援して下さって感謝しています。

↓今年の秋です！自転車！植物！があったりと生活感が出てきました！

↑昨年末、建築中現場を覗きに行きました！素敵な木材の香り！！

欅ホームリーダー

岸田千佳

新しいグループホーム『欅（けやき）・楓（かえで）』が完成して、新生活が始まりました。職員・子ども達のメンバー（担当も）ほとんど変更がなく、職員・子ども達共、気持ちも・自分の立ち位置も何となく決まっており、ざわつくことなく穏やかに、マイペースで始まった欅ホーム。「『欅』って漢字で書ける？」「あれっ！見本をジっとみて書いてみても難しいな〜」と、練習をしたことがあります。

食事作りも始まり、不慣れな職員が食事の準備をしていると、心配してカウンターからのぞき、「〜さんはこうやっとったよ〜」とアドバイスをくれたり、一緒に作ってくれ職員の方が教えてもらったりと子ども達に助けてもらうことも。また、味付けのコメントに対して「〜さん家の味はこうなんだって〜」とフォローに回ってくれる子もおり、ありがたく思った事も。本館で生活をしていた際は皆がそろって食事をとることが難しかったですが、ホームを開始した時期が春休み中ということもあり、皆が揃い、挨拶当番も自然に出来ており、皆で手を合わせ「いただきますっ！」と、自分の茶碗・箸を使用しての食事。苦手な物があっても残さないで食べようとしてくれる姿もあり作りがいがあります。新学期になり学校が始まりだすと、朝食がご飯食の日には、朝食＋弁当（４人分）＋おにぎりで、一升のご飯が窯からきれいになくなり、さすが成長期の男子のホームだなと思った瞬間。一番年下が小学６年生の７人グループ。大きな子達ばかりでどんな雰囲気、生活になるのか不安が少々ありましたが始まってしまえばなんのその。高校３年生の子達が中心となって、和気あいあいと、時にはいけない行動があった際は職員が注意する前にその子に声を掛けてくれたり、職員の事を聞きなさいと諭してくれたりと、ここでも助けられています。職員が忙しそうにしていればサラッとリビング、炊事場の片付けもしてくれ。「ありがとう」の気持ちでいっぱいです。

と、このような感じで過ごし、数か月たった今…。因伯子供学園のテーマ：『子供たちに笑顔と安らぎを。あたたかく、家族のように包み込みたい。』支援に行き詰り困る事、しんどくなることもありますがこの気持ちを忘れず、子ども達の前では笑顔で！優しい雰囲気で！を意識して、子どもの気持ちに寄り添い、かわいい子どもたちの成長にたずさわって行きたいと強く思います。

↓欅ホーム表札

楓ホームリーダー

小坂　阿季

「楓のように」

みどり町の一番奥に緑の木々に囲まれ、穏やかに佇む楓ホーム。

このホームに四月から七名の子ども達と四名の職員で暮らしています。二歳から高校二年生までの明るく元気で、ちょっと？わがままな楓ホームの女の子たち。

ダイニングテーブルで中高生がテスト勉強したり、皆でドラえもんを観たり、「あーん」と小さい子にご飯を食べさせてくれたり。「明日のお弁当はオムライスがいいな」とリクエストが来ることも。ホームでの生活が始まり、こうして自然と子ども同士や職員との会話や関わりが増えました。私としても、大舎の時にはできなかった関わりができ、やりがいを感じています。

そんな子どもたちですが、各々に抱えるものや背景には相当過酷なものがあります。私達は、子どもたちがより安心・安全にくらすことが出来るよう日々支援に努めています。でも、もしかしたらそれは職員の独り善がりかもしれません。子ども達の求める事と、私達が思う事にズレが生じることもあります。時に子どもの言動に傷付き、自信をなくし。

でも・・、それでもこの子達を思ってしまうのは、なぜでしょう・・。それは私達には、この子達への『思い』があるからです。

『本当にあなたのお父さん、お母さんにはなれないけど、楓ホームには、裕佳さん・岡空さん・京力さん・私がいるよ。』

子ども達にとってこれが当然のことになるよう、子ども達がそう思ってくれるよう、チームで協力し、子ども達の傍にいて、支え守っていきたいと思います。

秋になると真っ赤に色付く楓の葉のように、子ども達のこれからの人生が色彩り豊かなものになりますように。

↓今年の春も綺麗な桜が咲きました！！

↓楓ホーム表札

因伯子供学園小規模グループホーム新築工事事業報告

１　事業経過

当園は、国の「社会的養護の課題と将来像」に基づき、平成２６年(２０１４年)に「家庭的養護推進計画」を策定しました。これにより第一期末(平成３１年度)までに養育形態を大舎から小規模へと変更する計画を立てました。そして平成２８年(２０１６年)に創立１１０周年を迎えるのに合わせ記念事業として小規模グループホームの新築に取り組むことになりました。当初は２棟(４ホーム)を建てて本館全体を小規模化する計画で進めましたが、敷地面積との関係があり１棟(２ホーム)を建築する計画に変更しました。

すでに実施していました１ホームと合わせて定員４０名中２２名分(５５%)を小規模化することができました。今後は定員の充足状況を見ながら地域への分散化も考えて１００%の小規模化を実現していく予定としております。

定　員　　欅ホーム８名(男子)　・　楓ホーム８名(女子)

２　工事内容
建　築　　木造二階建て、延べ面積　５５３．６２㎡

３　工　期　　着　工　平成２８年９月１７日
完　成　平成２９年３月１５日

４　総事業費　　１２８，２９５，６００円（見込み）
収入　補助金　　８２，９２３，０００円
自己資金　　４５，３７２，６００円
支出
施設整備費　　１１９，１４５，６００円
設計・監理費　　６，７５０，０００円
初度備品費　　２，４００，０００円

５　設計・施工
設計・監理　　有限会社　堂計画室
施工　　有限会社　向井工務店

＊写真下
現場にて。
右から近藤健治理事、内藤彰範理事長、石亀政道園長

＊写真上
起工式にて。手前右から、向井工務店現場責任者青木正和氏、向井工務店代表取締役山本紘一氏、堂計画室代表取締役生田昭夫氏

新グループホーム完成への歩みと学園の変化

この度の小規模グループホーム竣工に向けて、建築計画の基本構想作り、具体的な検討をスタートしたのは平成26年度6月でした。竣工のおよそ3年前となります。

その後は、県内で小規模化を進めている3つの学園の見学をはじめ、堂計画室との意見交換、職員会にて話し合いを重ね、途中平成28年に重ねました。10月21日には震度6弱の鳥取県中部震災が起きもしましたが、無事竣工という運びとなりました。竣工までの流れは以下のようになります。

平成26年
●6月：基本構想・具体的な検討開始

平成28年
●7月：県内3施設見学
●10月：起工式
●11月：建方
●12月：屋根工事完了

平成29年
●3月：完成・完成検査
●4月：竣工式

←上からリビング・キッチン

グループホームが建築されていく中、大舎からほぼ小舎という形となるうえで、

◆一つ屋根の下ではないので、各ホームの食事をどのように給食と分担して作るのか？
◆小口現金や様々な費用のやりくりはどのように管理するのが効率が良いのか？
◆勤務体制の改善と引継ぎの工夫が必要では？
◆旧学園で生活する子ども、新しいグループホームで生活する子どもはどのように決めるか？
◆子ども達の学園の決まりはどうするのか？
◆ホームの名前どうするのか？

等々のたくさんの課題が出てくることとなり、多くの職員が集まれる時間を作り、多くの時間を費やしました。子ども達からもホーム名など募集したりもしました。

最終的に、男子ホーム「欅（けやき）」、女子ホーム「楓（かえで）」というホーム名に決定しました。100周年の際に建てられた記念ホームも「梧（あおぎり）」という名前に決定しました。

＊それぞれの意味合いは園長が書いておりますので省略します

新しいホームに子どもが移動した後、本館は男子が生活していた空間を職員用の部屋やカウンセリングルーム、日中保育が出来る部屋として整理しました。今まで本館の子どもみんながご飯を食べていた食堂も本格的なキッチンとダイニングへと姿をかえました。本館もリニューアルしております。

新ホームが出来、早くも半年が経ちました。朝会も各ホームの様子がより分かり易いように書式に工夫を加え、各々の子どもの情報を職員全員がより共有することが出来るようにしています。今年度を機に宿直日誌や個人日誌についてもパソコンで記入していく方向となり、表現的にはアナログからデジタルへと、因伯も一つの変革期を迎えているようにも感じます。

そして、この新グループホームには堂計画室の建築家生田昭夫氏の子ども達が快適な空間で過ごせるようにとの熱い思いが沢山詰まっております。見学はいつでもお立ち寄りください。

＊写真（上）日中保育室
（下）職員室

因伯からのお知らせ

今年度より因伯子供学園は里親支援拠点となり、里親支援専門相談員を配置することとなりました。林原年彦（15年目）が里親支援専門相談員としての業務にあたります。みなさん是非ともよろしくお願いいたします。

？里親支援拠点とは？

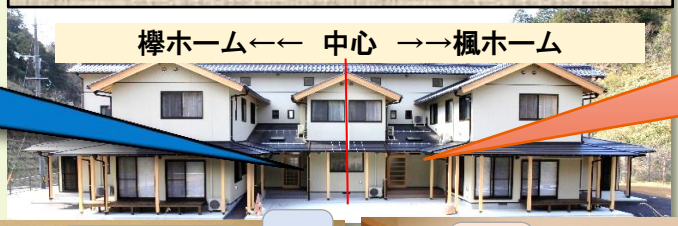
○「里親を支援し、里親委託の推進を図る民間団体等の集まりです」鳥取県には以下の拠点があります

・里親支援とっとり
・鳥取県里親会
・鳥取県里親委託等推進委員会
・鳥取子ども学園
・聖園天使園
・鳥取子ども学園乳児部
・米子聖園ベビーホーム
・子ども家庭支援センター希望館
・児童家庭支援センターくわの実
・児童家庭支援センター米子みその
・（東部）福祉相談センター
・（中部）倉吉児童相談所
・（西部）米子児童相談所

？里親支援専門相談員とは？

○「里親支援ソーシャルワーカー」とも呼ばれ、児童相談所の職員や地域の里親会等と連携して、里親の開拓や里親に対する研修、里親家庭の相談対応など、里親を支援し施設と里親をつなぐ役割を果たします」

新グループホーム



欅ホーム（けやき）【男子】

楓ホーム（かえで）【女子】

グループホーム 統括リーダー 小坂 宗司

山本 昇太

尾崎 明日香

欅ホームリーダー 岸田 千佳

佐々木 智美

京力 美穂

増田 裕佳

楓ホームリーダー 小坂 阿季

岡空 貴

職員紹介

給食

徳井 佳子

長田 早百合

徳田 弥愛

松原 由美

尾崎 美由紀

100周年記念ホーム

濱川 麻有

河原 成美

梧ホームリーダー 野田 慎二

山崎 麻衣

宮本 朱実

梧ホーム（あおぎり）

本館

園長 石亀 政道

副園長 兼 家庭支援専門相談員 斎江 富子

増田 由紀江

山根 祐介

河藤 千恵

森下 宣子

本館リーダー 松井 紀美子

河本 倫子

事務 山田 峰子

家庭支援専門相談員 林 かおり

セラピスト 玉城 大

里親支援専門相談員 林原年彦

因伯子供学園へのご寄付に感謝申し上げます。

2016年12月28日から2017年10月16日まで、ご寄付いただいた方々は下記のとおりです。心より感謝し、ご報告申し上げます。敬省略

寄付者			
倉吉市教育委員会	生田百合子	金澤瑞子	相見槻子
鳥取県労働者福祉協議会 中部支部	鳥取子ども学園	藤野興一	田中佳代子
光徳子供学園	倉吉地区更生保護女性会	篠原慎吾	いきいき夢くらぶ
紫藤さま	石亀政道	内藤彰範	妙寂寺
物品寄付者			
山陰合同銀行	NPOさくらの家	灘手ゴルフセンター	吉祥院
満正寺	ガイア紙屋町店	安納スウィーツファーム	倉吉市役所子ども家庭課
(株)アサヒ飲料 中央共同募金会	カーブス倉吉	金澤瑞子	グレートライオンズ
ダスカジャパン ワァウテモック	モウモウETセンター	池本道江	小泉産業株式会社
(株)島村楽器	倉吉市社会福祉協議会	(株)プレマスペース	倉吉幼稚園
犬山勤	鈴本光平	鷲見真宏	大丸輝和
伊藤広徳	ぱに一に	前田修志	山田勝徳
池田薫	明治安田生命		

ホームズタイム

ムラ学ズ毎日の君、のんいんいホ
まりもすま園ッ君ゆもなつきつい
来てらすま研たの、中いんとでつ
け姿ーれてもれ。ッ修り中いんや
らと心にく　ら方にやとでつき
ホ　こまは見ななか中と心にく　ら
ー　ころでこせ？いつにも配行姿ーれてらすま
ム　んで話うな猫為た！何しつが時てもれ。ッ
行　なしをいいは、？脱とてた見、いらた研たの、の
ズ　をいうと最大姿出！いのえ長まい方修り中いん
で　事い後丈をで外ただずいす、にやとでつき
ー　いかうの夫全き倉ら、ろ、期。可声見しゆもな
ー　た、こ姿かくな庫、うど間　愛を学てついホ
　　ととととを　見　の何とこ全　が掛でいたつー

編集後記

今回は発行させて頂いました。皆様にはご改めて感謝申し上げます。

列席された地震被害の復旧工事が竣工し、式典を迎えました。

県中部地震から一年。ムの記念号

ホームページ上の記事は、亀裂が頭記憶を思い起こすと鳥取県中部地震の事を思い出します。

「因伯子供学園へのご寄付に感謝申し上げます。」これ

編集後記

編集委員　林原年彦